

## 経営効率化目標の取組結果について

弊社は、平成20年から平成22年までの3年間を対象期間とした経営効率化目標を設定し、その達成に向け鋭意取り組んでまいりました。今般、その取組み結果を次のとおりご報告させていただきます。

引き続き、お客さまへのサービスの品質向上及び信頼性向上に全力を挙げて取り組んでいく所存ですので、今後ともご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

### 1. 生産性の維持・向上

目標) 生産性の維持・向上に努め、社員一人当たりの販売量を上げます。

結果) 大口需要の獲得等により、社員一人当たりの販売量は平成19年時点での3,761千 $\text{m}^3$ /年から4,656千 $\text{m}^3$ /年へと895千 $\text{m}^3$ /年(24%)増加しました。

### 2. 設備投資の効率的な実行

目標) 設備投資の効率的な実行に努め、平成20年から平成22年までの設備投資額を減価償却費等の内部調達資金内に抑制します。

結果) 工法改善等の効率化に努め、採算性を考慮した効果的な投資を行ったことにより、平成20年から平成22年までの内部調達資金約76億円に対して、設備投資額は約54億円に抑えることができました。

### 3. 営業費用の増加抑制

目標) 今後もお客さま件数の増加に伴う様々な費用負担や安全対策費等の増加が見込まれますが、経営全般にわたる合理化・効率化をすすめコスト改善に努めることにより、ガスの総販売量1 $\text{m}^3$ 当りの営業費用を抑制します。

結果) 経費増加の抑制と大口需要の獲得等により、ガスの総販売量1 $\text{m}^3$ 当りの営業費は平成19年時点での8.78円に比べ7.85円と0.93円低減することができました。

### 4. 保安の向上

目標) 経年本支管対策の推進及び経年内管対策を促進するとともに、安全型ガス機器の普及促進に取り組みます。また、大規模地震等の自然災害対策として、緊急遮断ブロック・供給停止方法の再構築を計画的に推進します。

結果) この3年間で、経年本支管については約47km、経年内管については約3千件の対策を実施し、安全型ガス機器の普及促進については、安全装置付ガス機器への取替え促進に加え給排気設備の改善をすすめ、約2千台の対策を実施しました。更に、平成21年からは業務用厨房のCO中毒事故防止対策として業務用換気センサーの計画的設置の取組みを開始し、447件の対策を実施しました。また、緊急遮断ブロック・供給停止方法の再構築についても計画どおりすすめることができました。

### 5. 環境への対応

目標) 環境負荷低減に寄与する天然ガスの普及拡大に努めるとともに、高効率・省エネ型ガス機器の普及促進に努めます。

結果) 天然ガスの普及拡大については、平成19年時点での718百万 $\text{m}^3$ /年から870百万 $\text{m}^3$ /年へとガス販売量が152百万 $\text{m}^3$ /年(21%)増加しました。また、高効率・省エネ型ガス機器の普及促進については、エコジョーズ、エコウィルに加え平成22年7月にエネファームの販売を開始し、この3年間であわせて4,626台設置し普及促進に努めました。